

正誤表

第一巻から第六巻までの初刷についての誤植をつぎのように訂正します。
ご迷惑をおかけしたことをおわびいたします。(編集部)

〔第一卷〕

ページ・行 誤

正

四・一四 労働組合学説
五・九 社会主義における

労働組合理論
社会主義社会におけ
る

八七・二二 『構造改革』は
九〇・一四 しやべる
九四・一三 利益はちじるしく
九五・三 二〇〇をこえ
九九・八 全面的な統一戦線は
一四 問題
一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

一二 プロレタリアートの
独裁

プロレタリアート独
裁

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

一二・三 桎梏になる)

桎梏になる)

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

二〇・一五 これに加

これに参加

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

二八・一七 一三・四%

一四・三%

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

三一・七 縮小均衡政策

縮小均衡政策

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

三四・三 廢止

廢止

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

四二・一五 八五〇万

九五〇万

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

四四・一四 労働問題専門家

労働問題専門家

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

四六・一一 ーマンシャル

マーシャル

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

五六・一 基本的特徴

基本的特徴*

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

五七・八 手をむすんだ議長

手をむすんだ議長

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

五八・一六 労働組合運動

労働組合運動

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

六七・九 二億五九五〇万人

二億五九五〇万人

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

八一・一八 エンゲルスの「時代

エンゲルスの時代

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

八五・三 金属インスター

金属インスター

一〇五・一 教室資料
一〇六・七 その経済的
一〇七・一一 一方、資本主義、
一〇八・九 の強化と
一一三・表 1940年 9,445
一一四・一〇 国鉄
一一八・三 労働者階級
七 その間の発展
一九九・一七 戦後の運動
二〇〇・一六 基本的に
一六 経済主義ないし経済
主義
一二三・六 産別会議は
一三 念激な
一二四・一〇 いつそう
一三一・三 帝国主義勢力

3 正 誤 表

| | | | | | |
|--------|----------|-----------|--------|-----------|-----------|
| 一三二・一 | 労働者階級 | (3) 労働者階級 | 二三七・四 | サンカデイリスト | サンデイカリスト |
| 一五 | ん。先進的な | ん先進的な | 一一 | 学説 | 理論 |
| 一三七・一〇 | 労働組合である。 | 労働組合でもある。 | 二四九・一五 | シュトウツトガルト | シュトウツトガルト |
| 一四三・四 | 明日 | 明白 | 二六三・三 | 労働組合 | 組合運動 |
| 一四八・一五 | 利用 | 利用す | 二七五・三 | 第一生活欲求 | 労働の第一生活欲求 |
| 一五〇・一 | 農奴俾 | 農奴制 | 二七六・五 | 達成されて | 達成された |
| 一五二・六 | 前進させ | 前進させる | 二八二・一〇 | 担い手 | 担い手 |
| 一五四・一四 | 三池闘議 | 三池闘争 | 二八四・一九 | 基礎上に | 基礎の上に |
| 一五八・一二 | など | などを | 二八六・九 | 諸国関係 | 諸関係 |
| 一六二・九 | 全農村 | 全農林 | 二八七・八 | 差異 | 差違 |
| 一六五・六 | C I C | C I O | 一八 | 差異 | 差違 |
| 一六七・八 | 一九五八年 | 一九六七年 | 二八八・六 | 初頭から | 初頭からの |
| 一七〇・一三 | 創草期 | 草創期 | 一七 | 矛盾、 | 矛盾は、 |
| 一八三・六 | しては「もちろん | しては、もちろん | 一九 | 社主義 | 社会主義 |
| 一九〇・七 | 学説 | 理論 | 二八九・二 | エンリコ | エンリーコ |
| 一九五・一七 | 徹廃 | 撤廃 | 二九一・一 | 対立になく | 対立はなく |
| 二〇〇・一 | はかりの富 | ばかりの富 | 四 | 消費生活の一面 | 消費生活面 |
| 二〇三・一二 | 送っている。 | 書いている。 | 五 | 肉体的労働者 | 肉体的労働者 |
| 二〇五・三 | おこなわれていた | おこなわれていた | 七 | 意義 | 意識 |
| 二一六・八 | 危死 | 危殆 | 二九五・六 | 基本的性格 | 特殊な性格 |
| 二二六・二 | 選集第九卷 | 選集第六卷 | 二九七・一五 | を規定している。 | と規定している。 |
| 二三四・五 | 新しい労働 | 新しい労働 | 三〇〇・三 | 基本的性格 | 特殊な性格 |

三〇四・六 になられる、性格

になられる性格

までもない

三〇七・一 ……

〔削除〕

二六・五 価格を基定してきた

価格を規定してきた

三一二・一 プロレタリアートの

プロレタリアート独

三五・一七 賃金奴隷制を隠蔽し

賃金奴隷制を隠蔽し

独裁

裁

四一・八 国家独占資本主義の

国家独占資本主義に

二 国家の前衛党

国家と前衛党

四一・八 にもとづく

もとづく

三一四・一六 うがい知る

うがい知る

四五・八 商品の価値

商品の価格

三一五・七 役割はかんする

役割にかんする

四八・四 独占資本はこの財政

独占資本は財政

三一七・二 党の国家権力

党と国家権力

一七 わが国にたいするサ

わが国にたいする直

八 体系に

体系があり、単純な

にもとづく

れにつづくサンフラ

三一九・一二 労働組合の

労働組合が

七五・三 耐久消費財

耐久消費財

三二四・一〇 そしろ

そして

七六・一三 蓄積なのである

蓄積なのである

三二五・一四 癒着が

癒着が

七五・三 耐久消費財

耐久消費財

三三四・一四 援助

協力

七六・一三 蓄積なのである

蓄積なのである

三四五・七 形式

形成

七七・二 反抗

反抗

三四九・一七 労働組合が

労働組合か

七八・三 明日

明白

一八 結合体として

結合体としての

一八八・一六 「労働力不足」

「労働力不足」

〔第二巻〕

八・一四 の上昇率

上昇率

一九六・一九 市場価値

市場価値

一九・一三 組織しなれば

組織しなれば

二一五・一四 市場価値

市場価値

二三・二 マルクスが…という

〔削除〕

二五六・一一 金貨

金貨

一六

マニファクチュア

マニファクチュア

一三四・一二 おこなわない

一七 ショップ

おこなわない、

ショップ・

二五四・四 赴任手当を

二七四・一 貸金規定

赴任手当

貸金協定

一四二・二 活用したり、

活用したり

二七九・七 二〇〇

二〇〇〇

一四五・一五 ガイド・ホスト

ガイド・ホスト

二八三・一三 財災施設

財災施設

一五〇・二 ゲーリレグ社

ゲーリング社

二八五・一〇 追求

追求

一六三・一六 隠弊

隠蔽

〔第五卷〕

一七〇・一六 不可能

不可避的

三五・一一 工業委員会

工場委員会

一八六・八 職階表

職階表の

四六・二 ルイ・サイサン

ルイ・サイサン

一九六・一四 だけではなく、いわ

だけではなく(いわゆ

六四・一一 大衆組織としており

大衆組織として成長

ゆる「本源の規定」、

る「本源の規定」、

二〇三・七 機械別工業

機械制工業

一五 軍時的

軍事的

二〇七・四 (時には身体で)。若

(時には身体で)若

一三一・一九 大平洋

太平洋

干の

干の

一三二・八 実態

実体

八 面接調査

八幡製鉄における面

一四 概括

概括

九 本給二万八〇〇〇円

本給五万八〇〇〇円

一四〇・七 系列化

系列下

二二二・一七 監督労働は

監督労働とは

一四四・七 強いものではない

強いものではない

二二四・一五 産業共同体

産軍共同体

二四六・一六 戦闘的の

戦闘的な

二二四・九 それだけは

それだけでは

二五五・一四 一九九八年

一九九八年

二四二・五 教育政策

教育政策

二六〇・三 全部

全東京市

二五二・一六 三四六・七

三四六・七

二六七・三 その後それはは

その後それは

一七 四六・七%

四六・七%

二八一・一二 若年の

〔削除〕

一三 投げられる。 投げられる。 政治的、経済的課題

二八五・二〇 発展 発足 「前期資金協定」 「年間資金協定」

三〇九・七 統一の展 可能性 統一の展望と可能性 天皇制諸力 天皇制権力

〔第六卷〕

二四〇・三 独占 資本

二七一・一七 資本抵抗だけの 資本の抵抗だけ

二六・二 旧財閥系銀行 旧財閥系銀行 性別

五三・八 真隨 真隨 現わされている 表わされている

八九・五 れらは、 らは、 八〇万部 五〇万部

一四八・一九 さきに述べた鉄鋼 さきに述べた鉄道 一六 週刊紙 週刊誌

一五九・七 問題の解決は、ロシ 問題は、ロシアのた め 七〇年春闘

一八二・二三 教育機関大衆的伝達 教育機関と大衆伝達 三〇八・一〇 七〇年春闘 活用

一八七・七 かちとることがきな かちとることができ 三四六・一九 年内 年間

一九七・四 のぼせている のぼせられている

二〇五・一二 労働組合の 労働組合への

一三 労働者に右翼的 労働者の右翼的

一四 隷属し 隷属させ

二一五・七 労働組合運動 労働組合運動

二二五・一五 できるからである。 できるのである。

二二六・四 をなしている。 をなしている。

7 正 誤 表

マルクス・エンゲルス選集刊行会訳

マルクス
エンゲルス

労働組合論

賃金事典

国民文庫版

一三〇円

藤本武 小島健司 黒川俊雄 青木宗也編著

菊判・上製 四八〇〇円

レーニン全集刊行委員会訳

レーニン 労働組合論

労働組合の調査活動

国民文庫版

①・②・③ 各三〇〇円

小島健司・宮崎三四郎編

四六判・上製 九五〇円

W・Z・フォスター著

世界労働組合運動史

日本の低賃金構造

B6判・上製 上五五〇円 下八〇〇円

黒川俊雄著

四六判・上製 八〇〇円

W・Z・フォスター著

三つのインタナショナルの歴史

日本の職務給

四六判・上製 一二〇〇円

小島健司著

四六判・上製 九八〇円